

お元気ですか。新緑から万緑へと季節が移っても南相馬の田んぼは今年も田植えができず荒れ果てたまま放置されています。震災から1年3ヶ月がすぎましたが、原発事故で振り撒かれた放射能は私たちの暮らしを脅かし続けていて、あの日から時空軸はねじれたままになっています。精神科の医師によれば住民は長期的なPTSDという今までに前例のない精神状態に陥っているといわれています。

そんな中で若者たちが2月に「市民同士で未来への対話をしよう」と企画した「南相馬ダイアログ・フェスティバル」でシンボルとして「想いのツリー」を置き、そこに市民（特に子どもたち）の想いを書いてもらいました。「今一番知りたいことは？」という問いかけの葉っぱのツリーに貼り付けられていた「じいちゃんちのすいかをたべてもいいですか」というたどたどしい字の質問を目にしたとき、我々大人は皆、涙があふれてとまりませんでした。

2012・2・19 南相馬ダイアログ・フェスティバル〈想いのツリー〉に書かれた子どもたちのメッセージ

「いま、子どもたちが知りたいこと」

- ・いつになったらプールに入れますか 小5
- ・海や川で遊べるのはいつですか
- ・いつ、釣りができるようになりますか 小5
- ・雨でもサッカーができるようになりますか
- ・いつになったら雪にふれていいんですか？ 小3
- ・すなあそびができるようになりますか
- ・ほうしゃせんを気にしないで外で遊べるのはいつですか？ 小5
- ・飼い犬は屋外で放し飼いにしていて大丈夫ですか
- ・20 km内の動物のいのちはどうなりますか？
- ・いつまでこの状況が続くのですか？
- ・事故はいつになったら終そくしますか
- ・原発の状態はほんとうはどうなんですか？
- ・今度、津波や地震がきても大丈夫なの？
- ・原発はもう爆発しませんか？ 小5
- ・危くなったら次の避難指示ができるのか？
- ・私たちが生きているうちに放射能問題はなくなりますか？
- ・いつ友達が安全に帰って来れますか 小5
- ・けいかいくいきの中の自分の家に帰れますか？ 小3
- ・警戒区域解除後、住民はもどってくるのか 小5
- ・帰れない人はどうすればいいんですか
- ・安全というけれど、将来安心してすごせますか！
- ・ここに住んでいて本当に大じょうぶなの？ 小5
- ・30キロ以内に子どもがいていいの？
- ・原町の小学校に通学して、大丈夫ですか
- ・いつになったら農業ができるのですか？
- ・以前のような生活を送ることができますか
- ・まだ見つかっていない行方不明の人の場所
- ・病院がいつもどおりに戻るまでどのくらいの時間がかかりますか

- ・いつ仙台までの電車が動きますか 中3
- ・国道6号線はいつ全面開通しますか
- ・福島の電気を使っていた都会では道路などがますます便利になるのに、電気を送っていた福島相双では万が一のための郡山や福島への道路が満足でない！見捨てたのですか？
- ・放射能除染の効果が本当にあるかどうか
- ・放射能はどのくらいあびると危険ですか 中3
- ・私達が将来白血病、ガンなどになる確率は何%ですか？
- ・^{ママ}甲状腺ガンは、福島県内でいつなってもおかしくない、私たちが死に追いやる病気なのですか？ 私たちは悪いことをしていないのに、なぜ同じ日本国民からまでも死の町などとよばれなくてはいけないのですか？ 中3
- ・将来、子供が産めますか？ 中
- ・僕はいつまで楽しく生きられるでしょうか
- ・水道水を飲んでもいいですか
- ・じいちゃんちのすいかをたべてもいいですか
- ・政府は本当のことをかくしていたのか
- ・東電と保安院がついたウソの数
- ・国が福島のために何をしてくれているのか
- ・原発は本当に必要なのか？
- ・これ以上、私たちに苦しめないで！
- ・地球はどのくらいまでもちますか？

中国では原発事故を核災と表記しているそうです。子どもたちが悲痛な叫びを発しなければならない事態を引き起こした今度の原発事故はまさに「核災」そのものです。私たちは日本で3番目の被曝地になってしまったといえます。そして、その延長上に劣化ウラン弾で苦しむ紛争地の子どもたちの姿も浮かび上がってきます。原発事故は核被曝そのものなのです。核を使ってまで電気を作らなければならない理由はいったいどこにあるのでしょうか？ 広島、長崎を忘れたのですか？ と大声で叫びたくなります。

子どもの笑顔を取り戻さなければ！ そんな思いが子どもの遊び場をつくろうという新しいエネルギーになり、ダイアログに集った若者たちが行政を動かし、春休みの2週間、市の施設を無料で借り切り「みんな共和国」という子どもから大人までを対象にした屋内遊び場を実現させました。人が来るのだろうかという若者たちの不安はみごとに外れ、連日大賑わいで延3,400人を超える子どもと、子どもの心を持つ大人が集いました。

子どもたちが、あふれるエネルギーを存分にふりまき走りまわっている。
 高校生たちが、自分たちの未来の社会を真剣に議論している。
 若いお母さんたちが、赤ちゃんを抱いて頭をよせ合いながら語り合っている。
 ばあちゃんたちが、ゆっくりとお茶を飲みおしゃべりをしている。
 男たちは、高い砦のような遊具をつくりシンボルの旗を掲げた。
 みんな思いっきり笑っている！
 桜平山のとっぺんに出現した夢の空間
 みんな共和国！

うず高く積まれたダンボールの山から家が生まれ、道が生まれ、お店が生まれ、銀行が生まれ、とうとう地域通貨まで生まれました。子どもたちは「暮らし」を思いっきり楽しみ、大人たちは子どもたちのあふれる笑顔から生きるエネルギーをもらっていました。一年間失われていた「普通の暮らし」が再現されたのです。私たちが望んでいた「普通の暮らし」とは「子どもの笑顔があふれる日常」であり、これから取り戻そうとしているのは「経済とは人間を幸福にするために存在するもの」というあたりまえの価値観の日常なのです。みんな共和国は図らずもそのことを私たちに気付かせてくれました。

南相馬は未来に向かって動き出しています。私たちは放射能と果敢に向き合い、ここで新しいまち、新しい暮らしをつくりあげるチャレンジを続けていきます。

2012年6月13日